令和２年　予算特別委員会4目【民生費】

↓↓↓質疑応答↓↓↓

【松澤質問】

　私からは２１１ページ、高齢者等地域見守りネットワーク事業、２１３ページ、認知症高齢者支援事業、２２１ページ、家具転倒防止対策助成、順不同にて質問いたします。

　初めに、認知症高齢者支援事業についてお聞きいたします。東京都は、２０２０年度の最重点分野として活力の源泉は人だとし、教育や子育て、認知症対策といった施策で独自色を鮮明にし、都健康長寿医療センターが持つビッグデータを、ＡＩなどを活用し認知症を研究するとありました。先ほどもご答弁がありましたけれども、品川区もさまざまな取り組みを推進し、支援が充実しておりますが、特に力を入れている、また評価が高い、そういった取り組みなどがありましたら教えてください。

【寺嶋高齢者福祉課長答弁】

　高齢者福祉施策の中でも、とりわけ認知症につきましては介護保険事業計画の重点施策として位置づけております。力を入れている取り組みとしましては、まずは認知症を正しく理解していただくための普及啓発。それから、認知症に関する悩みを持った方が気軽に相談できる認知症カフェ。それから、徘回高齢者を早期に発見するための見守りアイテム等に力を入れております。

　とりわけ令和元年度の取り組みとしまして、成功事例といいますか、うまくいった事例を１つご紹介しますと、地域活動課の生活安全担当と協力しまして、区内５警察の課長・係長級の会議を二度ほど開催いたしました。１回目は昨年のゴールデンウィークが大変長い期間のお休みでして、その早い段階で認知症の方が警察に保護されますと、警察に結構長期間いなければいけないという事態が想定されまして、その場合に区内の地域密着型ホームに至急保護して、安心してそちらで身元がわかるまでの間滞在していただくということの取り組みをお約束して、実施させていただいたということです。実際に保護された方はいなかったのですけれども、各施設は十分な受入態勢をもって準備をしていたという事例がございます。２回目の会議は、逆に保護してすぐ身元が判明した方を家族に引き渡す際に、区のほうで取り組んでいます見守りアイテム、アイロンプリントシール、キーホルダー等々のご紹介をしていただいて、登録につなげたという実績がございます。

【松澤質問】

　見守りアイテム、これも大変効果的だというのは私もお聞きしていました。これは実際に当事者の話、私はみんなの談議所しながわという団体に属していまして、これはボランティアの方が集まって認知症の方、障害者の方、そうでない方、みんなと一緒に話をするという会なのです。その中で当事者のお話をお聞きしますと、やはり人のつながり、これにとても刺激されます。環境によって左右されてしまう、よき出会いはよき人生となるという言葉が非常に印象に残っており、居場所づくりというのがとても重要なのだなと思いました。

　つながり、環境、場所とキーワードに関連すると、認知症カフェ、これが思いつきます。品川区における認知症カフェの取り組みは、１１か所から２０か所と、だんだんと拡充している、広がりを見せていますが、どのような経緯で広がりがあったのでしょうか。教えてください。

【寺嶋高齢者福祉課長答弁】

　認知症のお悩みを持った方がなかなかどういうところに相談に行ったらいいかとか、同じような悩みを共有した方とお話がしたいといった声を受けまして、もともと国のほうの制度ではあったのですけれども、品川区もいち早く着手しまして、認知症カフェを広げていただくためにさまざまな団体様、例えば社会福祉法人であったり、医療機関であったり、ＮＰＯであったりと、こういうところに声かけしまして開催していただいたといった経緯がございます。現在２０か所、実際には医療機関でやっていただいているものを含めますとさらにあと４か所ほどあるのですけれども、今、数が増えております。

　あともう一つ特徴的なのは、これは荏原第二地区という旗の台あたりの地区になるのですけれども、こちらには町会が主体となってやっていただいているカフェが４か所ほどございまして、当初は専門家がいないのでどうだろうかというご相談もいただいたのですけれども、実際に始まってみると大変敷居が低くて、顔見知りの方がいるので非常に相談に行きやすいということで、おおむね月１、２回程度を想定したのですけれども、最大で４回実施していただいているというようなカフェもあり、大変進んでいると聞いております。

【松澤質問】

　私も町会が主体でやっているとは知りませんでした。だんだんと拡充していく、これは認知症になっても住みやすいまちづくりがだんだんとつくられているということかなと感じております。

　しかし、認知症というものは早期相談、早期診断というのがとても大切であります。しかし早期発見、早期絶望とやゆされるほど知識というものが一向に広まっておりません。認知症になったら何もできなくなる、異常な行動をするなど、間違ったイメージが広がっております。区が開催しております認知症サポーター養成講座などでも間違ったイメージを正しく理解してもらうために頑張っていただいておりますが、例えば実際に活動しているその当事者本人がこれをお話ししたり、場所づくり、みんなの談議所しながわのように、これは実際に餅つきをこの前開催しまして、武蔵大学の学生さんが撮影してくれました。そのとき撮影したものをこの前見直したのですけれども、やはり皆さん生き生きとしていまして、当事者本人はもう自分の言葉などは忘れてしまっていましたが、やはり自分が元気でいることが見られることがすごい喜びだということで大変好評だったのです。そういった映像を流すとか、そういった取り組み、こういうものはありますでしょうか。

【寺嶋高齢者福祉課長答弁】

　今、委員からご紹介いただきましたみんなの談議所、こちらにつきましては区の高齢者福祉課も今、連携ができておりまして、いろいろな形で情報交換、情報共有を行っているところでございます。

　それから認知症の当事者の方ということでは、過去に講演会を行った際には、当事者の方に実際にご講演いただきまして、ご来場の方からも大変感銘を受けたという声をいただいているところでございます。

【松澤質問】

　やはり認知症の当事者の方がしゃべるという、お話しするというのは非常に参考になると私も思っております。

　しかし、やはり一番は早期診断であると思います。そこで、先ほどもちょっと答弁が出ましたけれども、品川区における早期診断の取り組みについてのお考えはありますでしょうか。

【寺嶋高齢者福祉課長答弁】

　認知症の原因はアルツハイマー等の病気であると言われております。医療機関の受診や認知症診断、こういったものの早期発見が何よりも重要であるということは、日ごろから施策の中でも重要視しているところでございます。そういった意味で、来年度、医師会の方にご協力いただきまして、令和３年度に向けた認知症検診の実施に向けた準備を進めていきたいと考えております。検討会の回数、規模等につきましては今の段階で未定ですけれども、できれば令和２年度中に周知用のパンフレットの作成までこぎつけていきたいと考えておりまして、これにつきましては１０分の１０の東京都の補助もあると聞いておりますので、これを活用したいと考えております。

【松澤質問】

　医師会との連携というのは大変心強く思っております。正しい知識が広がり、安心して住み続ける品川を強く望み、次の質問へ移らせていただきます。

　次は、家具転倒防止対策助成についてです。地震による負傷原因を調べると３０％から５０％が家具類の転倒・落下によるものであり、大変危険なことがわかります。また、東京都防災会議の被害想定によりますと、マグニチュード７.３の地震が夕方に発生した場合、都内全域で約５万４,５００人が家具類の転倒・落下により負傷すると想定され、建物の耐震化と並び重大な地震対策ではないでしょうか。

　そこで、ここ数年において、この助成金が使われている傾向を教えてください。

【宮尾高齢者地域支援課長答弁】

　家具転倒防止対策助成に関するお尋ねでございます。こちらは、まさに委員が今おっしゃったように、震災があったときに建物が無事であっても家具が部屋の中で倒れてしまって痛ましい事故が起きてしまっている、こういったことを防ごうという趣旨でやらせていただいている事業でございます。

　実績でございますが、今年度は２月末時点で２７件の申請をいただいております。昨年、平成３０年度は６２件、平成２９年度が２８件の申請をいただいておりまして、平成３０年度が他の年度よりも突出して高かったのは、この年は全国各地で、例えば北海道の胆振地方、それから大阪、熊本、こういったところで大きな地震があって、その影響を受けて申請件数が伸びたと分析しているところでございます。

【松澤質問】

　やはり年度によってばらつきがあるということは、今、課長がおっしゃったように防災イマジネーション、不燃化でも言いましたが、想像力の低下によっていろいろな部分でばらばらになってしまうかと思われます。やはりこの防災イマジネーション、災害が起こる、被害が出るということをしっかりと皆さんに考えていただいて。家具転倒は寝ているときが一番危険だとお聞きしました。そういったところにしっかり拡充できるように、これからも支援していただきたいと思います。